

# 「高知県橋梁会 令和元年度第2回研修会」報告

高知県橋梁会理事 西川 準二

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による、令和元年度第2回研修会が去る8月30日に高知市本町の「高知会館 白鳳の間」で開催された。

研修会では、①国土強靱化ソリューション「鋼管杭、鋼矢板工法」、②ミャンマーの教育事情、③支承便覧の改定のポイント「ゴム支承の設計の考え方」、④高知県橋梁会7月の現場見学会報告の4つの講演が行われた。残暑厳しく何かと忙しい時期にも関わらず107名の参加があり有意義な研修会となった。

## ■研修会(13:30~17:00)

開催に先立ち、右城猛会長より本日講演される4名の講師と講演内容の紹介がなされ、多数の参加者に感謝の言葉を述べた。

また、日ごろから高知県橋梁会に出席して頂いている久保博道氏から高知県橋梁会への謝辞と挨拶がなされた。



右城会長による開会の挨拶



久保博道氏による挨拶

最初の講演は日本製鉄株式会社 四国支店上席主幹吉原健郎氏。国土強靱化ソリューション「鋼管杭、鋼矢板工法」と題して多種にわたる基礎工の説明が行われた。①ガンテツパイル工法（外面突起付鋼管）、②NSエコパイル工法（らせん状羽根付鋼管）、③鋼管矢板基礎（鋼管矢板頭部剛結型）、④ジャイロプレス工法（狭隘地・低空施工）、⑤コンビジャイロ工法（鋼管杭と矢板の組合せ施工）、⑥NSカバープレート（維持管理と防食を合体した技術）について各々の特徴や用途、施工方法、施工実績等が説明された。またその他の商品・工法についても紹介があった。

(13:40~14:25)



最初の講演をされる吉原上席主幹

2番目の講演は株式会社高知丸高 技術開発部スモーク・テッハン氏。「ミャンマーの教育事情」と題して、ミャンマーについて様々な紹介があった。ミャンマーの各都市、食べ物、135の民族の内主

な8民族の特徴や衣装の違い等が説明された。

教育事情では小学5年、中学4年、高校3年、大学4～7年のシステムで、それぞれ公立、私立、僧院学校があるとのことであった。就職では外資系の企業の給料が圧倒的に良いので大勢の若者が外国語を学んでいると説明された。現在は日系企業の進出が多いので日本語を学ぶ人が多くいるとのことであった。スモー・テッハン氏の講演は、あまりにも上手な日本語の説明で驚かされた。

(14:15～14:40)



2番目の講演をされるスモー・テッハン氏

3番目の講演は株式会社ビー・ビー・エム 技術本部次長 高野真氏。支承便覧の改定のポイント「ゴム支承の設計の考え方」と題して、平成30年に改訂された支承便覧の変更箇所等の説明がされた。改訂のポイントとして、①支承部に求められる性能の標準的な検証手法を提示するという便覧の位置づけの明確化とそれに沿った記述の見直し、②便覧に基づく設計の前提を満足するとみなせる材料記述の見直し、③支承に求められる性能を有することを確認する試験方法の記述の見直し、④設計で前提とする施工、維持管理の条件の明確化、⑤品質管理方法の記述の見直し、⑥維持管理方法の記述の見直し、⑦免震支承の設計モデルの高度化 等についての説明があった。最後に超小型ゴム支承装置（線支承取り換え）とコンクリートT桁橋用の水平力分担構造取付部材の紹介があった。

(15:10～16:40)



3番目の講演をされる高野次長

4番目の講演は高知県橋梁会理事の西川。今年7月12～13日にかけて行われた見学会報告で「駒井ハルテック和歌山工場見学と高野山観光」と題して説明した。参加者や行程の説明後、一日目の駒井ハルテック工場の概要、案内された工場内の施設や作業内容の紹介を行った。高知県では現在、国分川橋や大桁橋を架設中である。二日目は高野山観光の紹介をした。奥之院の弘法大師御廟(ごびょう)や歴代の武将の墓所、金剛峯寺、根本大塔等を観光した説明を行った。高野山観光はガイドさんの詳しい説明のおかげで充実した観光であった。

(16:40～16:55)



4番目の講演を行った西川





会場の様子



吉田副会長による閉会の挨拶



質疑される受講者

■懇親会(17:30~19:30)

研修会終了後、ザクラウンパレス新阪急高知の屋上にあるトロピカルビアガーデンに席を移し懇親会を開催した。参加者は講師を含め55名であった。



懇親会の様子



司会を担当した西川

最後に吉田副会長より本日の講演者や参加者への謝辞述べ、研修会を修了した。



懇親会の様子